

はけたうえ
羽ヶ田上遺跡第9次（東京都羽村市）

株式会社武蔵文化財研究所 郡山雅友(士-036)

遺跡概要

羽ヶ田上遺跡は、羽村市の西部を流れる多摩川左岸の段丘面に位置する。近年の研究では段丘は大きく7面に区分されており、大部分は関東ローム層に被覆されるが、多摩川に面する一帯においては関東ローム層の存在しない複数の完新世段丘(図1 III～VII面)が発達している。これらの段丘は順次高度を下げながら複雑に入り組んだ段丘崖に画され、その形成年代は、後氷期の始まりの約11,000年前から約5,500年前と推定されている。市域ではこうした完新世段丘の崖線に近い平坦面に、縄文時代中期を中心とした集落(4遺跡)が立地している(図1)。今回の調査地は遺跡の南端部、川崎面と呼称される標高約140mの段丘縁辺部にあたり、直下を流れる多摩川河床との比高差は約20mである。

本遺跡はこれまでに道路建設や区画整理事業に伴い9次にわたる調査がなされ、縄文時代中期～後期初頭の住居55軒、集石土坑64基、土坑46基のほか、土器埋設遺構、配石遺構などが報告されており、径約200m規模の環状集落が想定されている。集落を構成する住居の帰属時期は中期前半勝坂式期24軒、中期後半加曽利E1～3式期23軒、中期末葉加曽利E4式期～後期初頭称名寺1式期8軒、また、第8次調査区を中心としたエリアでは加曽利E3式～称名寺I式期の柄鏡形敷石住居が検出されている。

調査成果と課題

今回の調査では堅穴住居9軒、柄鏡形敷石住居1軒、堅穴状遺構1基、集石土坑10基、土坑14基、土器埋設遺構4基、屋外炉1基、ピット群2箇所、遺物集中区2箇所が検出された。時期的には中期前半～後期初頭に至る遺構群である。削平・攪乱等で全般に遺構の損壊がみられ、堅穴住居では掘り込みが基盤の砂礫層まで達せず、黒色土中に構築されていたものが多く、炉や柱穴の配置などから住居の形状を推定したものもある。

中期前半の堅穴住居は3軒があり、SI01・05が勝坂2式(新地平編年7b期)で、SI06は勝坂1～2式(6b～7b期)が推定される。重複して検出されたSI05とSI06は主軸方向が一致しており、棒状礫・扁平な亜円礫を五角形に据え置いた石囲炉の形態も酷似している点から、南北方向への移設(再構築)が想定される。中期後半の堅穴住居は6軒が確認された。3基の土器埋設炉を有するSI03が最も古く、炉体(図2 1・2)から勝坂3式末葉(9c期)～加曽利E1式初頭(10a期)にかけて存続した住居である。柱穴の状況から2回の建替えが観察された。加曽利E2式期では4軒が検出された。曽利式土器が盛行し、

SI02は曽利Ⅱ式(11a期)の埋設土器をもち、SI10では曽利Ⅱ・Ⅲ式(11c期)の2基の埋設土器が並列して検出された。屋外の埋設土器にも曽利式が用いられる傾向が見られた。SI04は相伴遺物に乏しく時期は判然としないが、大形礫を長方形に組んだ堅牢な石囲炉を有し、本遺跡や隣接する山根坂上遺跡の加曽利E2式期に特徴的な形態であることから、該期の所産と思われる。加曽利E3式期は隣接する第8次調査で敷石住居2軒を含む4軒の住居が検出されているが、本地区ではSI09(12a期)1軒のみであった。

中期末葉～後期初頭の住居として柄鏡形敷石住居SI07(13b～14a期)がある(写真1・2)。全長約4.5mを測り、主体部が径約2.8m、張出部は長さ1.7m、幅0.75mで先端の主軸線上に埋設土器を伴う。遺構は後世の影響で部分的に損壊しているが、炉の長軸側を除き全面に礫が敷設されていたものと思われる。また、連結部付近の外周には縁石が確認された。炉は主体部の中央に位置し、大形の扁平礫と石皿を転用した石囲炉の内部に、3個体分の土器片(図2 3～5)が内面を上にし重ねて敷かれた状態であった。本住居では関西圏の土器である北白川C・中津式系土器(図2 6～11)と、在地の加曽利E式系土器が相伴している。

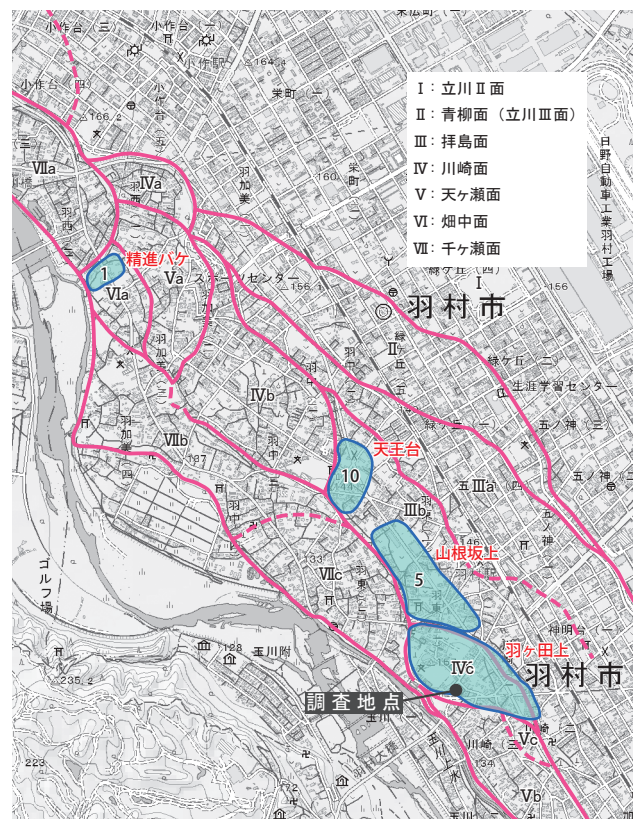


図1 段丘面と縄文時代の集落遺跡

羽ヶ田上遺跡では第7次調査以降、段丘縁辺部の調査が進み、昨年度の第10次調査によって集落の範囲としては東西に約300m、南北に約200m規模の広がりが確認されている。勝坂1式期(6b期)を初現とし、断続的ではあるが称名寺I式期(14a期)に至る各時期の占地の様相が徐々に明らかになりつつある。とりわけ、崖線直上の一角に集中して構築された柄鏡形敷石住居群(第10次

を含む11軒)の動態については、住居に付随すると考えられる土坑(墓墳)や配石遺構などの帰属を検討し、各段階での土地利用の在り方を探る必要がある。

参考文献

羽村市史編さん委員会 2021『羽村市史』資料編 考古・中世補遺



写真1 柄鏡形敷石住居 (S107)



写真2 土器片敷石囲炉 (S107)

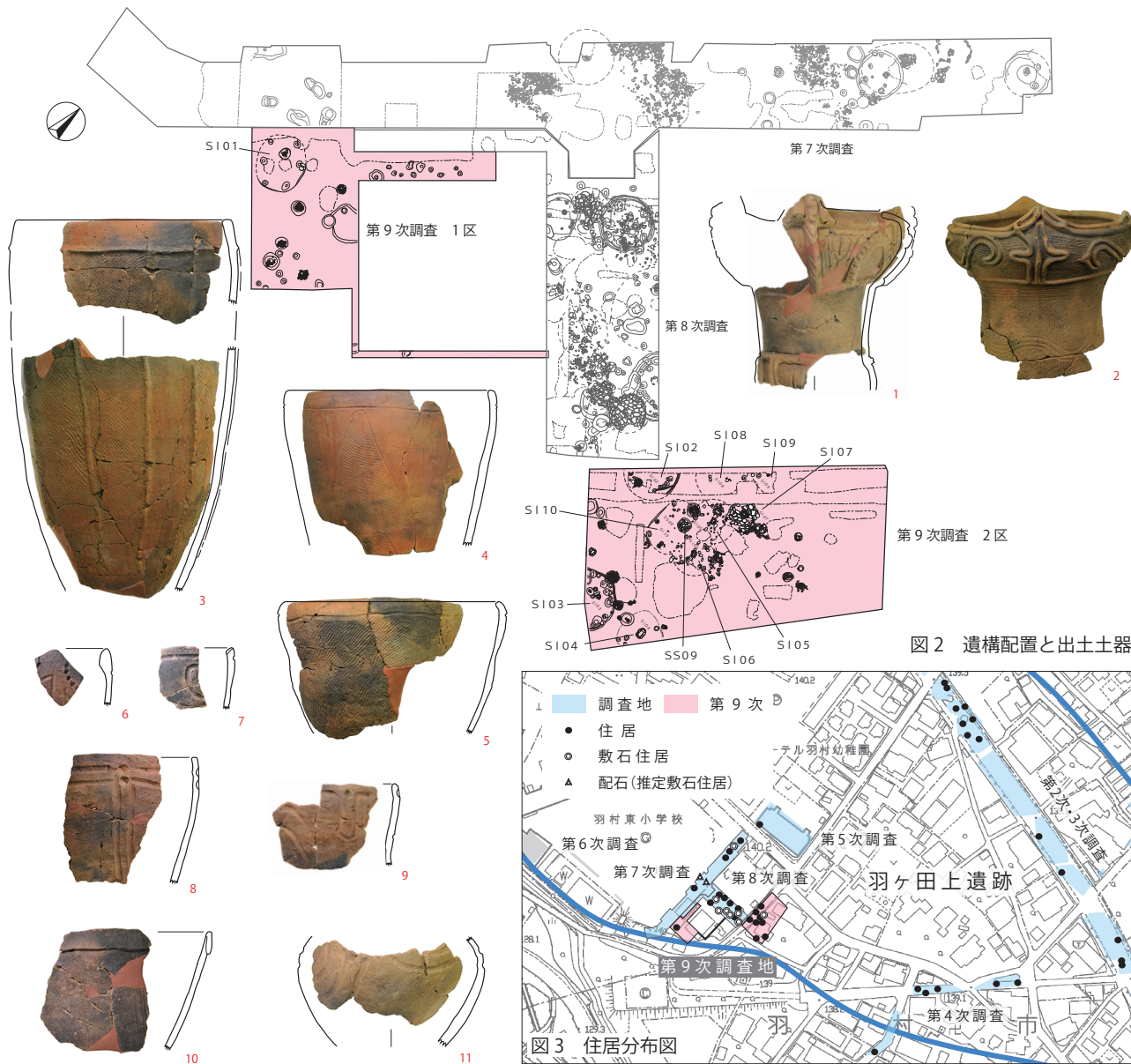


図2 遺構配置と出土土器

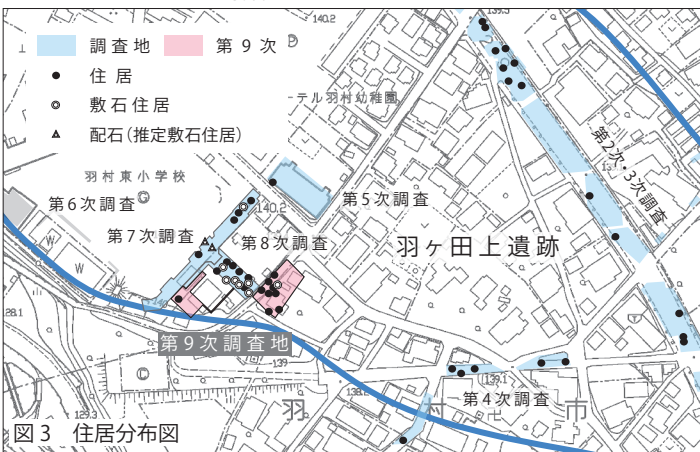


図3 住居分布図